

(参考様式5)

平成22年度元気な地域づくり計画目標達成状況報告書

都道府県名	市町村名	地区名	計画期間	事業期間
三重県	伊賀市	伊賀地区	平成18年度～ 平成22年度	平成18年度～ 平成22年度

1 施策ごとの評価

(1)ソフト

ア 施策の内容: 遊休農地再生活動実践スタート支援

イ 施策の実績

(コメント)

地域住民による検討結果を基に、景観作物や新規作目の導入(ひまわり、菜の花、ニンニク、生姜等)による交流促進、特産品開発等の活性化の取組を推進し、遊休農地の解消、活用を促進した。

ウ 施策の効果

(コメント)

都市住民との交流や特産品開発による活性化の機運が高まり、地域住民や農業者組織による起業や継続的な取組へと繋がっている。

※ 施策の内容ごと、事業実施主体ごとに記載すること。

(2)ハード

ア 施策の内容: 農業生産基盤の整備(農道改良2カ所、用排水施設整備3カ所)
グリーン・ツーリズムやすらぎ空間整備(市民農園及び附帯施設)

イ 施策等の実績

(ア)実施計画達成状況

(以下の様式を参考にして記述する。なお、事項欄には、地域計画に掲げた指標を設定するに当たり、施設等の種類ごとに実施計画を設定している場合、また、地域計画に掲げた指標以外に数値目標がある場合、それらを記述すること。)

事業種類	事業内容	助成対象施設等	事業実施主体	管理主体
農業生産基盤の整備	農業生産施設整備	農業用排水施設、農道	伊賀市	山畑地区
事業量	事業着工年度	事業竣工年度	供用開始日	
用排水施設 L=1.2km 農道舗装 L=1.6km	平成18年度	平成19年度	平成20年3月3日	

事項	単位	計画時 (17年度)	目標値 (21年度) A	達成状況		備考
				実績値 B	達成率(%) B/A	
農業用排水施設の整備により用水改良された農地の面積	ha	0	71.4	71.4	100%	
農道の整備により生産性の向上、維持管理費、走行経費が節減できる農地の	ha	0	13	13	100%	

同様

事業種類	事業内容	助成対象施設等	事業実施主体	管理主体
農業生産基盤の整備	農業生産施設整備	農道	伊賀市	西之澤川西地区
事業量	事業着工年度	事業竣工年度	供用開始日	
農道舗装 L=0.9km	平成19年度	平成19年度	平成20年3月3日	

事項	単位	計画時 (17年度)	目標値 (21年度) A	達成状況		備考
				実績値 B	達成率(%) B/A	
農道の整備により生産性の向上、維持管理費、走行経費が節減できる農地の面積	ha	0	7.2	7.2	100%	

面積

事業種類	事業内容	助成対象施設等	事業実施主体	管理主体
農業生産基盤の整備	農業生産施設整備	農業用排水施設	伊賀市	猪田西出地区
事業量	事業着工年度	事業竣工年度	供用開始日	
排水施設 L=2.3km	平成20年度	平成21年度	平成22年3月31日	

事項	単位	計画時 (17年度)	目標値 (21年度) A	達成状況		備考
				実績値 B	達成率(%) B/A	
農業用排水施設等の機能確保	ha	0	18.3	18.3	100%	

事業種類	事業内容	助成対象施設等	事業実施主体	管理主体
農業生産基盤の整備	農業生産施設整備	農業用水施設	伊賀市	愛田地区
事業量	事業着工年度	事業竣工年度	供用開始日	
用水施設 L=0.45km	-	-	-	

事項	単位	計画時 (21年度)	目標値 (22年度) A	達成状況		備考
				実績値 B	達成率(%) B/A	
農業用水施設の整備により、用水改良された農地の面積	ha	0	35.8	0	0%	

事業種類	事業内容	助成対象施設等	事業実施主体	管理主体
グリーン・ツーリズムやすらぎ空間整備	市民農園整備及び附帯施設整備	農園区画整理建築工事	(農)伊賀の里モクモク手づくりファーム	(農)伊賀の里モクモク手づくりファーム
事業量	事業着工年度	事業竣工年度	供用開始日	
農園整備 1.5ha 附帯施設 12棟 備品 一式	平成18年度	平成19年度	平成19年7月30日	

事項	単位	計画時 (17年度)	目標値 (21年度) A	達成状況		備考
				実績値 B	達成率(%) B/A	
地域の交流施設(伊賀市市民農園、モクモク農園)における滞在者数の増加率	%	100	237.9	128.3	54%	

調査年次における実績が計画未達である場合の理由及び改善策(目標年度の報告において達成状況が著しく低い場合は、要領の第5の4の(1)に基づき作成した改善計画及び指導等の状況について添付して報告すること。)

(イ)施設等の利用実績

施設等名（モクモク生きがい農園）

年次	項目	整備 区画 数	月別利用実績												3月時点 利用率
			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
19	市民農園の契約者数	150						32	33	35	36	36	38	38	25.3%
20			41	43	44	46	47	49	52	51	41	42	41	41	27.3%
21			33	33	34	37	36	39	39	41	40	40	41	50	33.3%
22			43	43	44	47	46	49	49	51	50	50	51	48	32.0%

- (注) 1 地域計画とともに作成した利用計画において使用した指標を記述する。
 2 調査年度における実績が計画未済である場合は、下段に理由及び改善策について記述すること。
 3 目標年度の報告において実績が計画を大幅に下回る場合は、第5の4の(1)に基づき作成した改善計画及び指導等の状況について添付して報告すること。

ウ 施策の効果

(コメント)

事業主体の関連事業である宿泊施設の利用や農業体験イベント等とのマッチングにより、滞在型、高付加価値型の市民農園を志向する施設として整備することにより、一定の都市住民ニーズに応えている。また、日帰りで経済的な利用形態を希望する近隣住民向けの既存の市民農園との相乗効果によって、多様な交流機会の創出にも繋がっている。
 しかし、一般の利用料金よりかなり高い料金設定に見合う魅力への理解促進や情報発信、宿泊施設利用とのサービス連携が未成熟なことにより、契約者数が伸び悩んでいる。
 今後の改善策としては、マスコミを介したさらなる情報発信、農業公園来訪者へのPR、利用条件の設定変更、宿泊事業とのサービス連携等に取り組み、利用率の向上に努めていく。

※ 施策の内容ごと、事業実施主体ごとに記載すること。

2 指標の達成状況に関する評価

	指標	目標値A	実績B	B/A	備考
必須	(長田・古山・三田・霧生地区) 遊休農地の解消	15ha	15.7ha	105%	H21
	(山畑地区) 農業用排水施設等の機能の確保	71.4ha	71.4ha	100%	H21
	(山畑地区) 農道機能の確保	13.0ha	13.0ha	100%	H21
	(西之澤川西地区) 農道機能の確保	7.2ha	7.2ha	100%	H21
	(猪田西出地区) 農業用排水施設の機能確保	18.3ha	18.3ha	100%	H21
	(愛田地区) 農業用水施設の機能確保	35.8ha	0ha	0%	H22
	(青蓮寺地区) 都市農山漁村交流施設等における滞 在者数の増加率	237.9% (345人)	128.3% (186人)	54%	H21
(長田・古山・三田・霧生地区) 遊休農地解消に向けた検討会	15回	129回	860%	H21	

地域	(山畑地区) 遊休農地なしの現状維持	0ha	0ha	—	H21
	(山畑地区) 用排水施設にかかる維持管理の節減	0.7	0.5	140%	H21
	(山畑地区) 農道にかかる維持管理の節減	0.7	0.4	175%	H21
	(西之澤川西地区) 農道にかかる維持管理の節減	0.7	0.3	233%	H21
	(猪田西出地区) 用排水施設にかかる維持管理の節減	0.7	0.4	175%	H21
	(愛田地区) 遊休農地なしの現状維持	0	—	—	H22
	(愛田地区) 用水施設にかかる維持管理の節減	0.7	—	—	H22
	(青蓮寺地区) 農村体験イベント実施回数	6	10	167%	H21

(コメント) ※目標が未達成となった指標については、その理由を記載

- ・「都市農山漁村交流施設等における滞在者数の増加率」については、滞在型、高付加価値型の市民農園ニーズを充分捉えきれず、契約者数が伸び悩んでいる。
- ・愛田地区の用水施設整備については、事業実施期間中の施工に至らず、事業実績は0%となる。

3 目標の達成状況に関する評価

(コメント)

- ・遊休農地の解消に向けた地域の取り組みは順調に推移し、地域活性化に向けた多様な活動に繋がっている。
- ・基盤整備事業については、未実施地区を除き目標以上の事業効果を得るに至っている。(未実施の愛田地区については、別途23年度竣工予定)
- ・市民農園整備については、都市農村交流に向けた新たなニーズに応えるべく一定の成果が得られたが、事業主体が取り組む関連事業との連携や、地域との協働による交流促進を図る面で課題があり、目標達成に至っていない。

4 総合評価

(コメント)

遊休農地の活用や農業生産施設整備については目標達成しており、地域住民による継続的な活性化の取り組みにも大きく寄与している。また、一部未実施の地区についても23年度中の竣工予定であり、同様の成果が得られるものと見込んでいる。

市民農園整備については、事業の展開方向に沿って一定のニーズには応えているものと思われるが、利用率が伸び悩んでいることから、今後も課題解決に取り組む必要がある。

(都道府県の意見)

(コメント)

未実施の愛田地区については、早急に農業用水施設を整備することが重要である。

市民農園については、関連事業との連携や協働により、契約者数の増加を計画的に行っていく必要がある。